

協議事項 8

不登校支援の取組みについて

不登校支援の取組みについて、協議事項として以下のとおり提案する。

令和6年9月4日提出

神戸市教育委員会事務局

事務局長 高田 純

不登校支援の取組みについて

1. 校内サポートルームの整備および支援員の配置について

(1) 校内サポートルームの整備

- ・自分の学級に入りづらい児童生徒が、校内において安心して過ごすことができ、自分のペースで学習・生活できる居場所
- ・9月1日現在、全245校（小学校163校、中学校82校）で校内サポートルームが設置され、児童生徒を受け入れることができるようになっている。

(2) 支援員の配置

- ・校内サポートルーム等において、児童生徒一人一人の学習補助や見守り、社会的自立に向けた支援を行うための支援員を全小中学校に配置している。
- ・学校教育や不登校児童生徒へのサポートに理解・関心がある地域人材を任用しており、9月1日現在、各小中学校に1名以上、計422名の支援員を配置している。
- ・支援員は、20代～80代までの幅広い年齢層の人材で構成され、教員免許は不要としていたものの約64%が免許を有している。また、教員経験者を含め、学校勤務経験者が全体の65%を占めている。他にも、学校に長年関わり子どもの様子や学校の事情をよく理解している者や、過去に不登校児童生徒に関わったことで支援のノウハウを身につけた者などが多く配置されている。
- ・地域人材が見つからない場合は、教育人材センターの登録者を紹介している。ただし、学校が希望している曜日や時間帯と登録者の希望が合わないケースもある。
- ・教員免許は不要、学生は不可
- ・時給：1,327円×1日4時間×週5日

(3) 校内サポートルームの利用状況

- ・7月は、支援員が配置されていた240校において1日平均343名の児童生徒を対応した。（最大375名）利用者数が多かった学校では1日11名の利用があった。
- ・学年別で見ると、小学校では6年生が、中学校では3年生の利用が多い。
- ・開室状況は学校によって異なるものの、校内サポートルーム支援員の勤務時間である4時間程度としている学校が多く、2～4時間目に開室している割合が高い。

(4) 支援員の研修

- ・教員免許を不問としていることから、研修等を実施して不登校児童生徒の理解促進と適切な支援のあり方を身につける必要がある。そのため、事前に神戸市の不登校児童生徒の現状や、現在の不登校支援のあり方、および校内サポートルームにおける児童生徒との関わり方等についての動

画研修を実施した。また、9月には支援員の業務やサービス、サポートルームの事例や支援員がしている工夫や感じている課題などについて、2回目の動画研修を実施した。

2. 学びの多様化学校について

(1)保護者説明会

①概要

不登校児童生徒支援の一環として、令和7年度に開校予定の学びの多様化学校（神戸市立湊翔楠中学校分校「みらいポート」）に関する説明会を不登校児童生徒の保護者向けに開催し、学校の特徴等を理解いただく。

②場 所 神戸文化ホール 中ホール（神戸市中央区楠町4-2-2）

③日 時 令和6年7月5日(金) 13:30～14:05（説明会終了後 15:00 まで質疑応答）
※16:00 よりホームページにて動画配信

④参加者 保護者 120 名
（神戸市内の小学校6年生、中学校1・2年生に在籍する児童生徒の保護者）

⑤内 容

- ・神戸市の不登校支援の取組について
 - ・神戸市立湊翔楠中学校分校「みらいポート」について
（学校の特徴、対象生徒、スケジュール等）
- ※終了後、質疑応答

⑥質疑応答の内容

- ・定員、学籍について
- ・活動の内容や行事の有無等について
- ・学習関係について
- ・その他（スケジュール、他関係機関との併用、保護者の意見、2校目の開校等）

(2)みらい相談1

①概要

学びの多様化学校（神戸市立湊翔楠中学校分校「みらいポート」）に入学・転入を希望する不登校児童生徒および保護者と個別相談を行い、児童生徒への適切な支援および「みらいポート」への理解を深め、今後の進路選択の幅を広げていただく。

②場所 神戸市男女共同参画センター（あすてっぶ KOBE）3階

③日時 令和6年7月24日(水)～8月9日(金) 各30分

(3)今後のスケジュール

9～10月	「みらい体験」 （「あすてっぶ」にて3日間の体験入学、AM3h、PM2h、昼食持参）
11～12月	「みらい相談②」（親子面接）、入学者決定
R7.1～3月	入学説明会、入学準備
4月	学びの多様化学校 開校